

1

いつしよに染いた友人

あつり 朝に冷える 雨のこぼれ

じやふふの 台詞は来る

そよが今日に冷しい

紙がそこをてきていよのか と息を

体罰も予なくは

昔のうらす人トの事だ知れず

彼女がトトはいつも ていおいたかやれ

といよ

何故かあちりしに

学校のがえりは同じ方向だ

あいて甲野駅まで行つた

その向 よく本をみずろおに染いた

自転車も 離れゆく てもろい時代

本をよみろがろ 染いても 何もしつかえろい

本をよみろがろでも 道路は見えろ

正だ 顔の上のろろは 細新して 細かへん

にぶつつかのこはがろ

電車で高岡までいってかろも かせろ通り

ろを同じろ向でいっしよに染いた

うわさたよると

二年ほど前 老人ホームに入られたときいた

彼サるう ^{保持} 別若者ホームがビックリだのト

彼女のことはよく知っていたい友人に

テ ~~シ~~ リをすの

デンクは去るの

任才存い 明日とでももう一度 デレクを

してやろう

自分も現在 平穏であるト

石おりのこと とうしていのかと 氣にする

さつと 彼サうしい 生きろといていと

思つていゝ 何事も一を生命だつた

彼女のことに 身たやうていゝ

2022
8/27